

「市民科学」プロジェクト・日本地理学会 共催 シンポジウム
諏訪の地理、信州の地理と市民科学

信州の教育者三澤勝衛先生 －研究・教育実践から学ぶこと



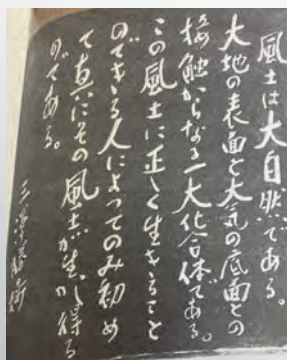
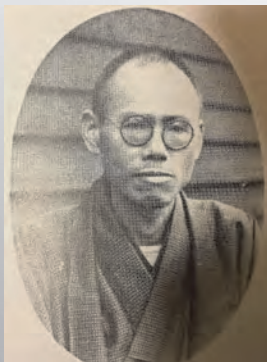
長野県上田高等学校
前校長 北澤 潔

1

三澤勝衛先生ゆかりの地

更級郡更府村三水
(現 長野市信更)

(旧制)松本商業学校
(現 松商学園高等学校)

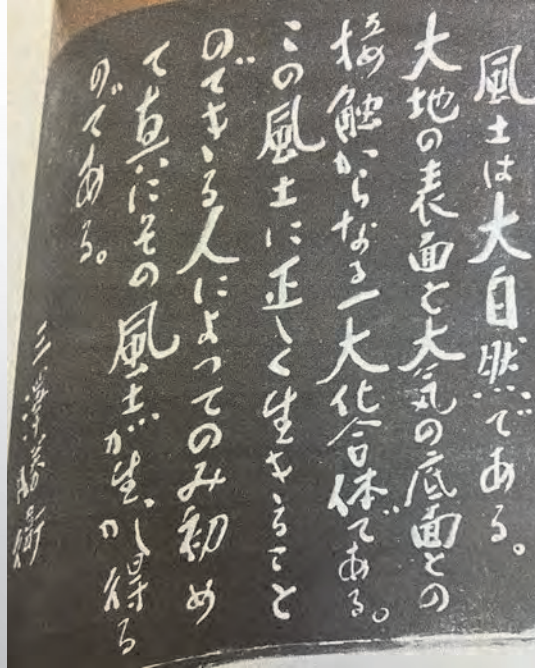


(旧制)長野県(立)諏訪中学校
(現 長野県諏訪清陵高等学校)



2

長野市信更の生家にある石碑



著書『風土産業』の序文から

3

三澤勝衛先生略歴(1)

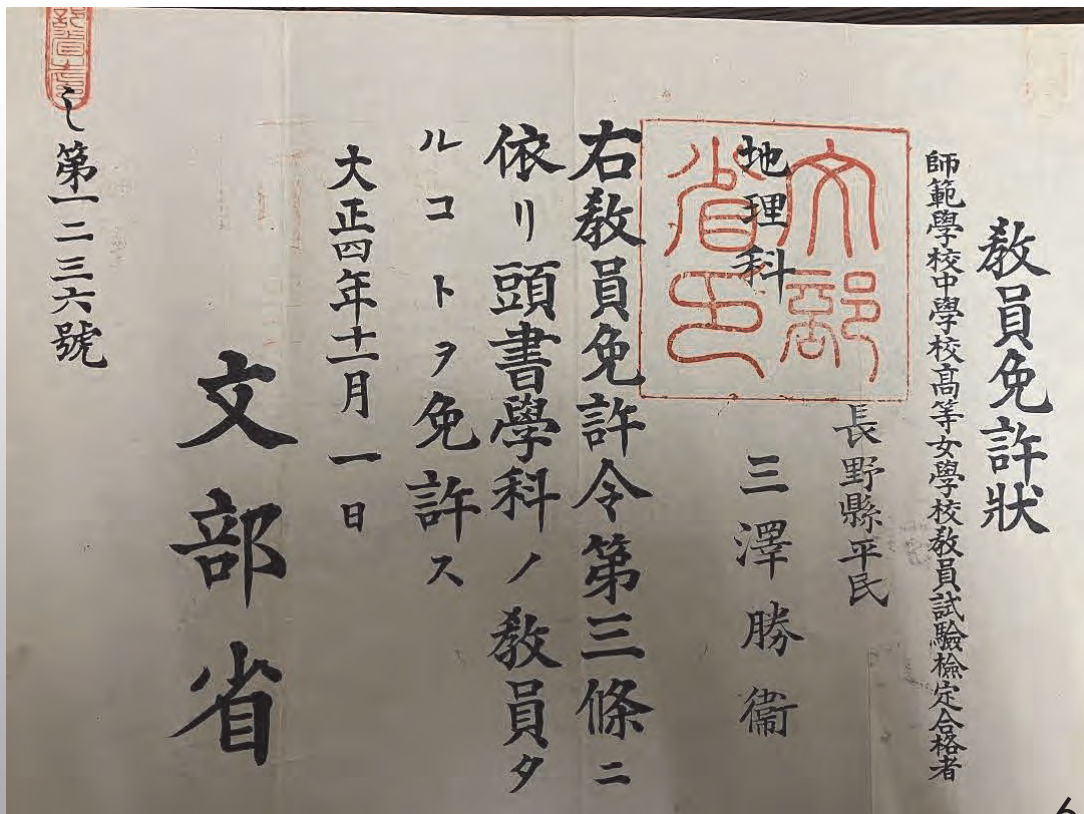
1885	明治18	更級郡更府村三水(現 長野市信更)で出生
1899	明治32	水内尋常高等小学校高等科卒業 農業に従事
1902	明治35	更府尋常小学校で補助代用教員(満17歳)
1903	明治36	小学校准教員免許状取得
1904	明治37	専科正教員農業科免許状取得
1905	明治38	尋常科正教員免許状取得 島内小学校
1907	明治40	小学校本科正教員免許状取得 臼田小学校
※以後、須坂小・松本小・更級郡中津小(1915)で勤務		

4

三澤勝衛先生略歴(2)

1915	大正4	<p>文検(文部省検定)合格(30歳) ※藤田道雄氏 師範学校・中学校・高等女学校の地理科免許状取得 ※文検とは: 文部省師範学校中学校高等女学校教員試験検定</p>
1918	大正7	松本商業学校(現 松商学園高等学校)教諭
1920	大正9	<p>長野県立諏訪中学校教諭(35歳) 3月31日付け ※現在の長野県諏訪清陵高等学校 文検(博物科の内鉱物)合格・免許状取得 ※全国で6名合格(池内精一郎氏、千野光茂氏)</p>
<p>※1901(明治34)年4月 長野県立諏訪中学校 1920(大正9)年4月23日 県令第38号により長野県諏訪中学校 現在も、北海道、宮城県、長野県では「道立」「県立」と称さない</p>		

5



6

三澤勝衛

7

長野縣立諏訪中學校教諭任
三級俸給與

大正九年三月三十一日



教員免許狀

8

師範學校中學校高等文學校教員試驗檢定合格者

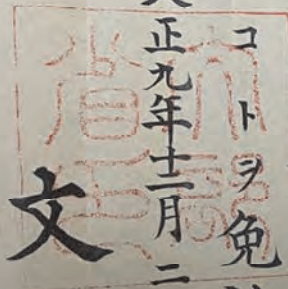
博物科ノ内 長野縣

鑛物 三澤勝衛

右教員免許令第三條ニ
依リ頭書學科ノ教員夕
ルコトヲ免許ス

大正九年十一月二日

文部省

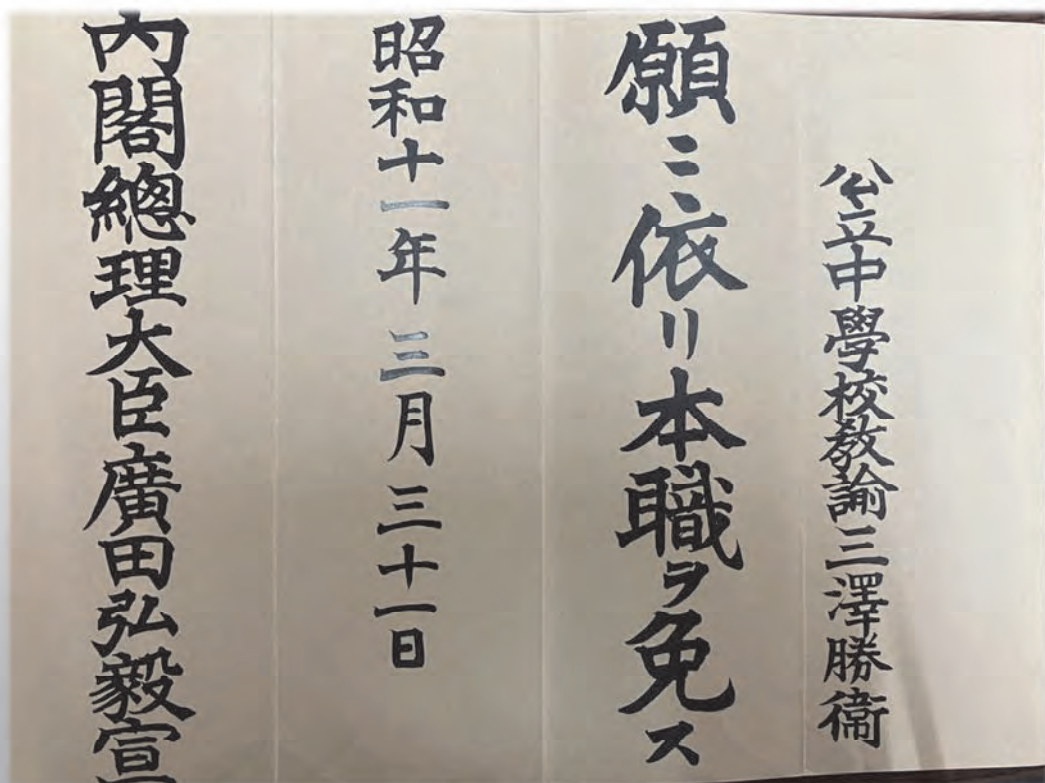


第三三三三號

三澤勝衛先生略歴(3)

1921	大正10	6月ごろ 太陽黒点観測を始める 以後14年間観測を継続
1922	大正11	「諏訪製糸業の地理学的考察」発表 以後、「諏訪製糸業発達の地理的意義」 「八ヶ岳火山山麓の景観型」など多くの論文を発表
1934	昭和9	長年の太陽黒点観測の結果、左眼の視力衰退 白内障と診断され12月末左眼失明
1935	昭和10	胃がんの疑いで手術し、胃の1/2を切除
1936	昭和11	胃疾再発
1937	昭和12	8月18日逝去(52歳)

9



10

三澤勝衛先生の業績

1 研究者として

- * 天文学 * 小気候学 * 人文地理学 * 地理教育論
- * 風土論 など

2 教育者として

- * 直接教えを受けた生徒だけでなく、論文や諸活動を通じて学界や地域多くの人々に影響を与える
- * 先生の教育論は、現在、国がそして長野県が進める「主体的・対話的な深い学び」・「探究的な学び」につながる

11

三澤勝衛先生記念文庫について

- 諏訪清陵高等学校創立70周年にあたる**昭和40年(1965年)4月25日に開設**
- 現在の文庫は昭和60～63年の校舎全面改築に伴い新築
- 所蔵品 **郷土地理研究の成果**
 - * 蔵書、論文、著書、原稿、写真、フィールドノート、地図、資料 その他
 - * 論文・著書(生前に刊行された**124篇**、没後の刊行13篇)
 - * 単行本(3,291冊)
 - * 学術雑誌(171種7,013冊)
 - * 論文別刷(1,371冊) 文庫開設時の蔵書 11,675冊
- 「**三澤勝衛先生地理研究資料目録**」完成(昭和48年)
小林茂樹氏による資料等の整理

12

三澤勝衛先生記念文庫の内部(1)



13

三澤勝衛先生記念文庫の内部(2)



14

研究者としての業績(1)

① 天文学

ア 太陽黒点の継続観測(14年間)

- * 太陽活動は、季節を左右し、風土を支配する根源
- * 観測に便利なようにと、わざわざ学校の隣に転居
- * 当時、スイスのチューリッヒで継続して観測が行われている
他は、ほとんど例がなかった
- * 望遠鏡を直接覗くという危険な方法(実視観測)で観測
→ 左眼を失明(昭和9年)

イ 黄道光の観測

15

太陽の黒点観測の様子



16

研究者としての業績(2)

② 小気候学(局地気候)

ア 諏訪地方の風向分布・降水量の分布などの調査

* 佐々倉航三博士との共同研究である諏訪地方の降水量の分布の研究では、諏訪中学生も協力

* 小気候学的調査の嚆矢と評価

イ 局地風の研究

* カキやギンナンの偏形樹から分析

* 吉野正敏氏はアドリア海岸、スリランカ、スイスなどで、木の向きから風向を調査

17

研究者としての業績(2)

② 小気候学(局地気候)

ウ 植物生態学と気候とを直結させた研究

* ヒガンザクラの八分咲き期日の分布図作成

エ 防風林の地理学的研究

* 八ヶ岳山麓の防風林に関する研究(1932)

オ 上諏訪町(当時)の気温分布観測

* 吉村信吉博士と共同して実行された移動観察の結果を「長野県上諏訪付近の早朝の気温分布」として発表(1931) ※近代的都市気候研究のさきがけ

18

研究者としての業績(2)

② 小気候学(局地気候)

- カ 雷雨の進行、降雨域の移動などと**地形との関係**を
求める
- キ **盆地内の谷地形が風向に及ぼす影響**という角度
から浅谷の風景を追求されただけでなく、盆地全体
の地形がその上層風に与える影響についても研究
※**高層気候学**に関する研究
- ク **現地調査の必要性**を指摘
* 地域性とその認識の方法論について

19

研究者としての業績(3)

③ 人文地理学

- ア 綿密な**野外調査**
- イ **問題設定、発想、研究方法の独創性**
- ウ 防風林(八ヶ岳山麓)、地形、地質、温泉(温
泉統合)、農村計画などについて地理学の立
場から研究

20

研究者としての業績(4)

④ 地理教育論

- ア 「風土に関する地理学的知識が人間生活においてしめる位置と関係を、生徒に認識理解させること」
- イ 「**地理学は解明自体が目的であり、地理教育は風土性を理解させ、またその解明を通じて生徒の人格を高め、その完成をはかるのが目的である**」
- ウ 地理同好会(昭和2年設立)は、三澤先生、池内精一郎先生、牛山伝造先生の指導で野外調査も行う

21

研究者としての業績(5)

⑤ 風土論

- ア **風土とは「大地の表面と大気との接触によって、そこに新しく招来されるその接触面の性質」と定義** ※三澤勝衛『新地理教育論』
- イ 地域性を明らかにすることを志す
- ウ **風土産業**の構築のために地域を分析していく地理学を重視
- エ そのために自然科学的方法を駆使
- オ 学校教育だけでなく、**社会人への風土教育**も提唱

22

研究者としての業績(5)

⑤ 風土論

「地方振興は地方産業の振興にその中心を置かなくてはならないこと、しかも振興すべき産業は、どこまでもその地方の地方性、すなわち“**風土性を基調として立脚しているもの**”でなくてはならないこと。したがって**各地の風土性の究明の大切であること**」を強調

23

矢沢大二先生の考え

- 地方に在住する一地理学徒という役割を果たしただけでなく、多くの論文を通して、**地理学とくに郷土地理学の向かうべき方向づけをされた**という点において、わが国はもちろん世界の地理学界に大きな足跡を残した
- 地理学におけるもっとも大きな業績は**地方地誌、ないしは郷土地理の分野の開拓と発展につくしたこと**
- **郷土地理学徒が陥りがちな独善もなければ、末梢的事象の過大評価も先生の論文にはみられない**
- 地理学では一面においては環境、人間生活およびそれらの関連を深く追求するとともに、他面ではそれらを地域という形でまとめ上げようとしている。先生の郷土地理が特に学界において高く評価されるいわれは、**地域の環境の把握が実に巧みに行われたこと**による
- 先生の**人なみすぐれた鋭い観察と、地理学に関連をもつ他の分野に関する深い学識とを基礎として、比較的狭い地域内の自然環境の特色と場所によるその差異とを明らかにすることに卓越した業績を示された。**

24

フィールドノート



教育者としての業績(1)

① 諏訪中学校「科学会」の指導・育成

- ア 1922(大正11)年発足:現在のクラブ活動のようなもので、**生徒たちの自主的な研究の場**となった
- イ 数学、物理、化学、地学、歴史、博物、天文・気象、写真の8部から成り、後に天文と気象が分離し9部
- ウ 毎年、**展覧会を開催**
- エ **発表は独創性があること、オリジナルな研究であることが条件**であった

教育者としての業績(2)

② 授業のスタイル

ア 具体的な経験領域から出発して、本質的な理解に到達させる授業展開

イ 教科書を使わずノートをとらせず、フィールドワークを重視した授業を展開 **「自分の頭で考えろ」が口癖**

ウ ものを見、考える力を植えつけ、科学する心を教えた
(新田次郎)

エ 「理解の授業」「感激とショックの授業」

オ 強烈に着想力を養う頭の訓練の時間だった(藤森栄一)

27

教育者としての業績(2)

② 授業のスタイル

ご子息の三澤光則氏

父の地理の授業を受けた

最初の講義で「**地理とは地球と大気との接触面においてその両者の相互作用として起る現象を研究する学問です。**」

28

授業の様子



29

教育者としての業績(3)

③ 地理教育論

中学5年の「地理通論」は、教科書を全く使わず1年間天文の講義

(古畑正秋先生)天文学の歴史は科学の歴史である。観測をもとにして、それを最も合理的に説明する自然の法則をうちたて、正しい自然の姿を認識していく科学の精神は、天文学の歴史にもっともよく示される。恐らく先生は天文を学ばれ、それに魅せられ、あの信念をもって教育に当たられたのではないか。

実験・観察・観測をもとにするという先生の信念は、恐らくこの天文の歴史から得られたものであろう

30

三澤先生の考えの一端(1)

東洋の學は高く西洋の學は深い
されば學殖の増進に伴い
東洋の學はその視界を益々廣大にし
是に反して
西洋の學は愈々その視界が狹隘となる
従つて
東洋の學は綜合に趣き
思考思索に長じ
是に對して西洋の學は分析に傾き
實驗觀察に宜しい
されば今日並に今後の學徒は
その兩者の教養に
努力を惜しんではならぬ
—三澤勝衛—

31

三澤先生の考えの一端(2)

教科書は古墳にして
著書は墓場であるが
學會は戰場である
したがって發表論文には
時に誤謬があり
血が出るのを知れないが
生命は脈々と進んでいる
眞理を愛する學徒よ友よ
活きた智識を死ぬるならば
學會とその機用誌とを
斥けてはならぬ
—三澤勝衛の考え—

32

三澤先生の考えの一端(3)

由来、教育というものは、教えるのではなく学ばせるのである。その学び方を指導するのである。背負って川を渡るのではなく、手を曳いて川を渡らせるのである。既成のものを注込むのではない、構成させるのである。否、創造させるのである。只、他人の描いた絵を観照させるだけではない。自分自身で描かせるのである。

『新地理教育論』より

33

「地域研究年報 27(2005)」斎藤 功

諏訪の地域調査は、地理学者にとって「ためらい」もしくは「躊躇」の地である。というのは、諏訪中学の教師三澤勝衛が、そこをフィールドにして殆どの地理的現象を解明してしまったからである。

私が『風土産業』で知られた三澤勝衛先生の業績に関心を持つようになったのは、藤森栄一の『信州教育の墓標—三澤勝衛の教育と生涯』(学生社、1973)を読んだ頃かも知れない。同氏の『縄文の世界』や『縄文農耕』などを読んでいたからである。また、三澤勝衛の論文を最初に読んだのは「諏訪製糸業の地理的意義」(地理学評論, 2, 813-834, 925-951)である。ブナ帯の研究を始めた頃で、市川健夫先生から八ヶ岳山麓の別荘地や野菜栽培とともに「尖石遺跡」や「萩倉」を案内して頂いた。さらに、三澤先生の幻の名著『洪崎図集』で有名な洪崎や『三澤勝衛文庫』まで同僚とともに案内して頂いたことが契機になったと思われる。その三澤先生の研究は製糸業の現状把握にはじまり、時代を遡って諏訪製糸業の勃興、立地変化や江戸時代の綿打ち稼業や篠巻きにまで及ぶ立論が素晴らしく、大いに感激させられたとともに頭を打たれた感じがした。

三澤勝衛先生の教え子の矢沢大二先生や諏訪彰先生が、当時私が勤めていたお茶の水女子大学に非常勤講師で来られた際、三澤勝衛先生の話や諏訪の話や伺う機会があった。三澤先生が顧問であった理科クラブの部長であった諏訪彰先生は、三澤先生の素晴らしさを強調し、矢沢先生からは小さな神社まで御柱を立てる風習があることなどを教えて頂いた。また、三澤先生以後、製糸業から精密機械工業に変わった諏訪を取り上げた地理学者に板倉勝高や山本健児がいるが、三澤先生の域には達していないように思われる。

34

新学習指導要領(平成30年3月告示)

「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に名称が変更
より探究の過程を充実させ、**教科横断的・総合的な学習を重視**する

第1 目標	
総合的な学習の時間(平成29年告示) 探究的な見方・考え方を働かせ、 横断的・総合的な学習を行うことを通 して、 よりよく課題を解決し、自己の 生き方を考えていくための資質・能力 を次のとおり育成することを目指す。	総合的な探究の時間(平成30年告示) 探究の見方・考え方を働かせ、横 断的・総合的な学習を行うことを通し て、 自己の在り方生き方を考えなが ら、よりよく課題を発見し解決してい くための資質・能力 を次のとおり育成 することを目指す。

「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編」より

長野県教育委員会の取組

2018年(平成30年)9月に「**高校改革～夢に挑戦す
る学び～ 実施方針**」を策定

「新たな学び」としての「**探究的な学び**」への**転換
と推進**を図ることを示した

各高校の学びを体系的に示す「**3つの方針**」の策定
(2020年3月公表)と運用

「探究的な学び」への転換(1)

「探究的な学び」は、新学習指導要領が定める「**主体的・対話的で深い学び**」を実現する手法の一つであり、探究活動を中心とする一連の学習プロセスである。生徒はその学びの中で、「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力等」や「主体性を持って多様な人々と協働的に学ぶ態度」という「学力の3要素」をバランスよく身につけ、「**新たな社会を創造する力**」を育てていく。

37

「探究的な学び」への転換(2)

学校での学びを学校の中だけのもので終わらせず、社会で生きる学びとするために、**外部と連携した「探究的な学び」も重要となる**。地域に根ざした「探究的な学び」の総称である「信州学」も含め、**地域資源を有効に活用した課題解決学習**や、キャリア教育の視点から自己のあり方や生き方、社会との関わりについて考えを深める学びを推進する。

38

「探究的な学び」の推進(1)

学校における学習の基盤は教科の授業であり、「探究的な学び」により、深い知識や確かな技能の習得、思考力・判断力・表現力等の涵養が可能となることから、**すべての教科学習で「探究的な学び」を取り入れた授業を行う必要がある。**

39

「探究的な学び」の推進(2)

授業に**グループワーク、集団討論、フィールドワーク等の学習形態を積極的に取り入れたり、教科ごとに授業研究等、指導力向上のための日常的な取組の充実を図る。**

すべての生徒が「探究的な学び」に取り組む中で、**興味・関心のある生徒が、地域や社会が抱える諸課題の解決に取り組み課題解決型学習(PBL)のようなさらに深い探究に進んでいくことが期待される。**

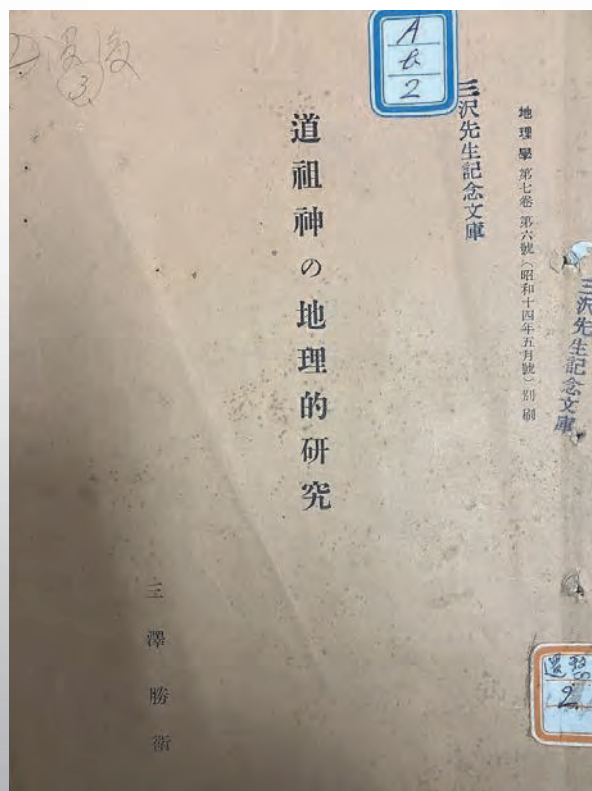
40

「探究的な学び」の推進と 「新たな学びのスタイル」構築



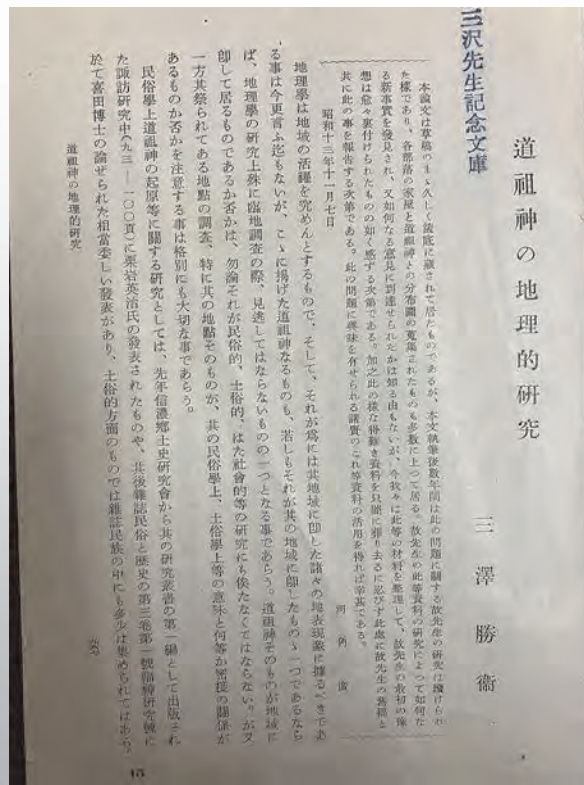
41

「道祖神の地理的研究」を例として(1)



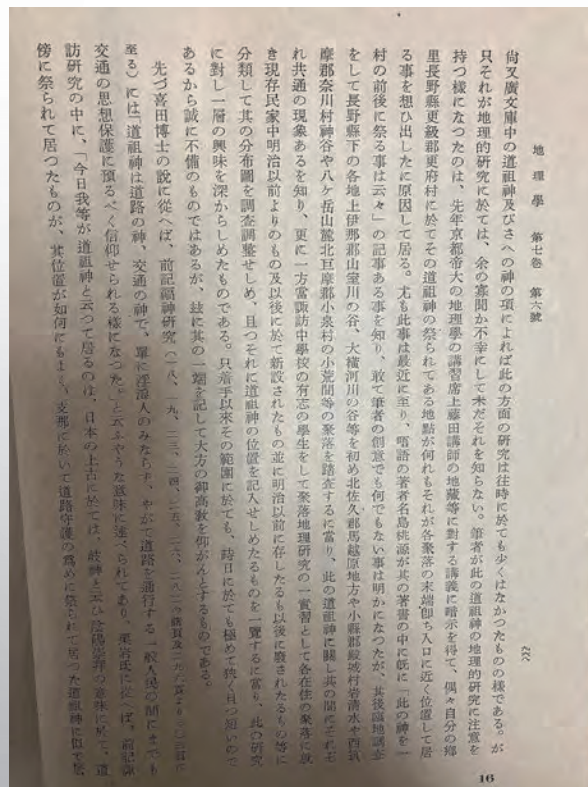
42

「道祖神の地理的研究」を例として(2)



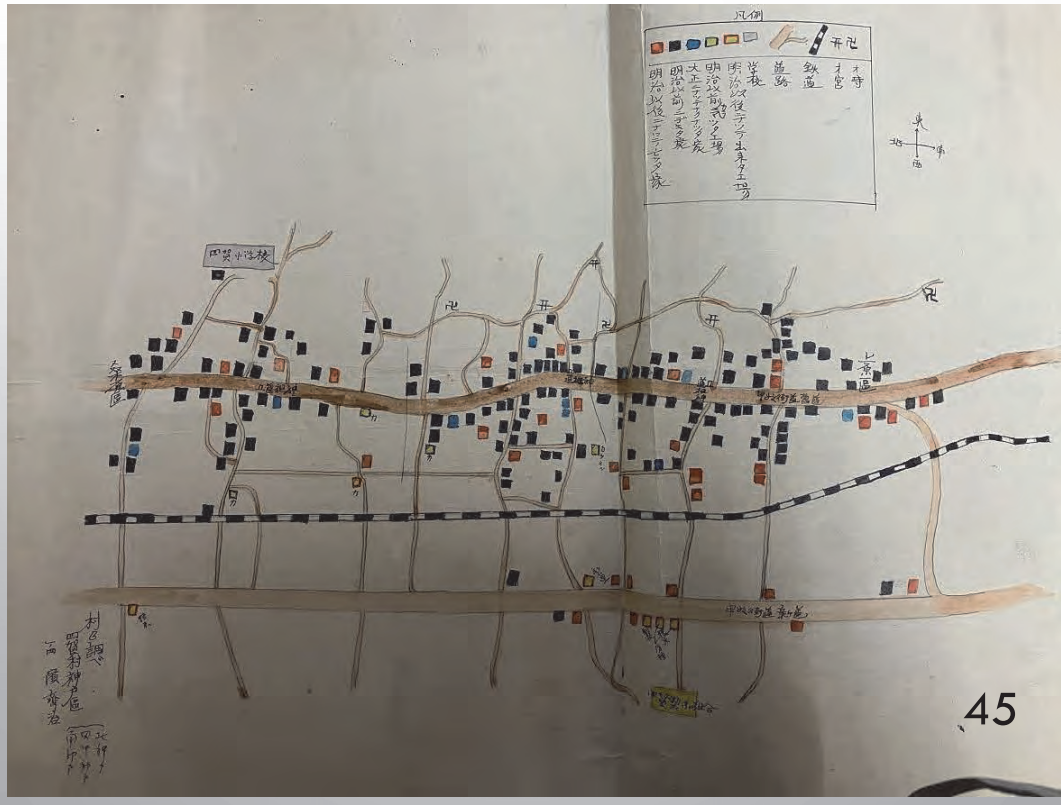
43

「道祖神の地理的研究」を例として(3)

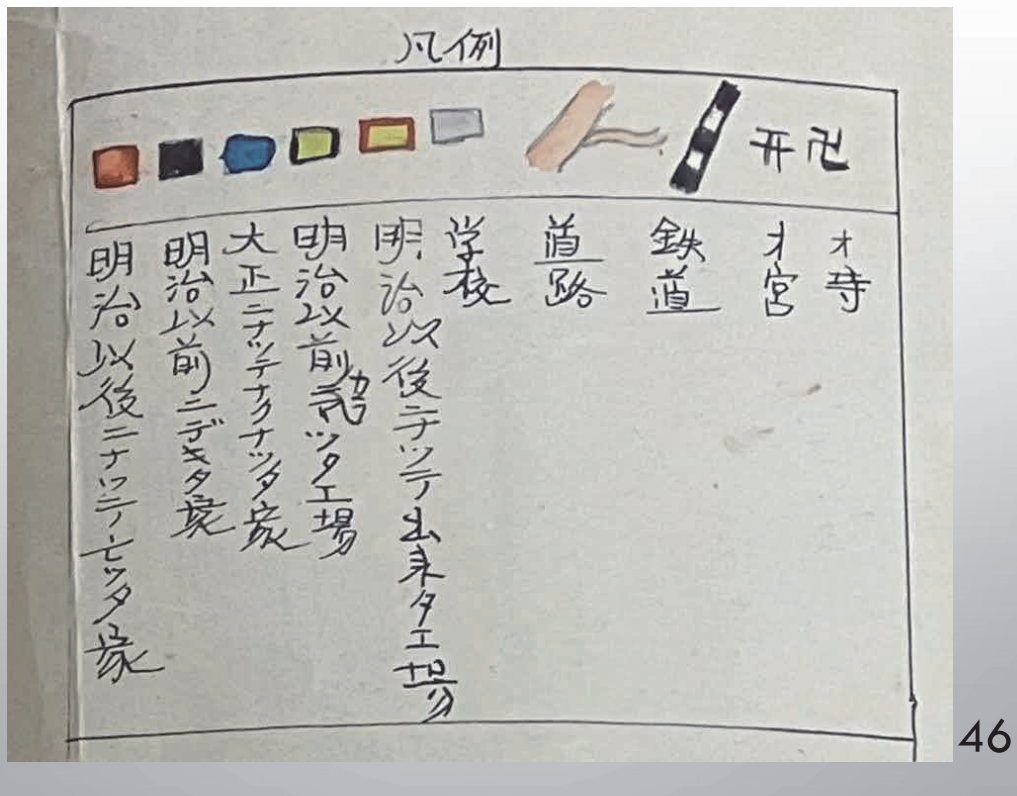


44

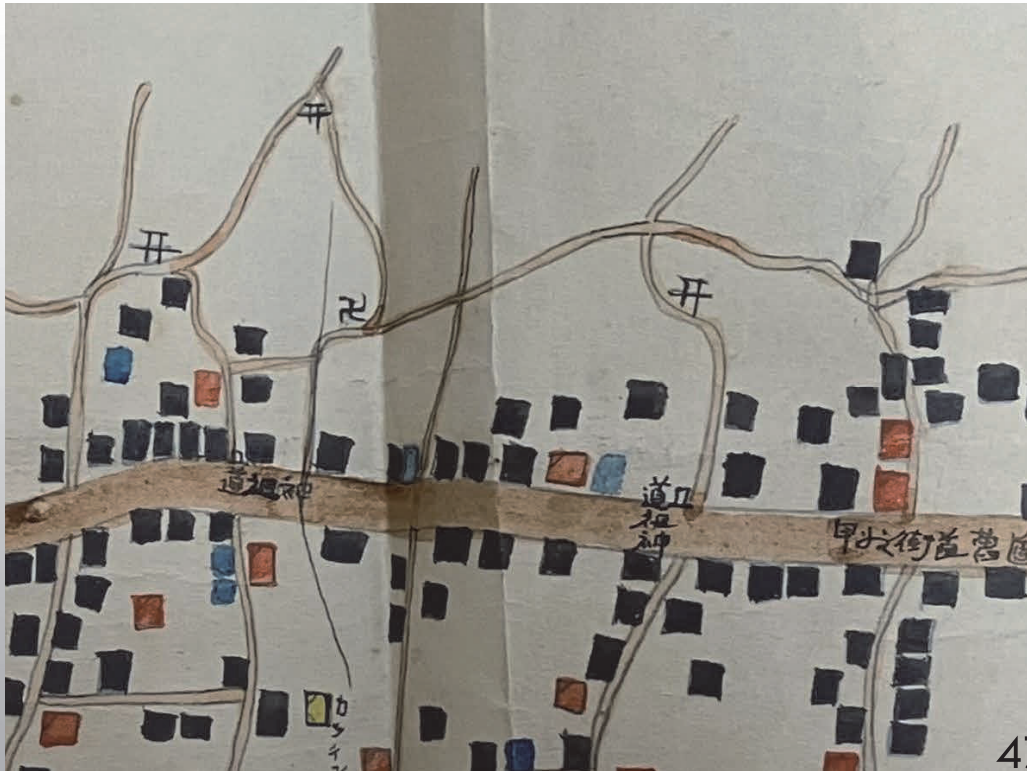
「道祖神の地理的研究」を例として(4)



「道祖神の地理的研究」を例として(5)



「道祖神の地理的研究」を例として(6)



47

「道祖神の地理的研究」を例として(7)



48

「道祖神の地理的研究」を例として(8)

地理学 第七卷 第六號

去の土俗的調査が先決問題となるのであるが、更に其上に尚二の注意を忘れてはならない。その一つは道祖神場の移轉である、即ち道祖神なるものは一方前記の様な意味に於て既に繁落に即したるものではあらうが、其繁落との關係は彼の氏神や薬師堂等と繁落との關係とは異り一方極めて道路とも密接の關係を持つて居るものである。従つて其地方に於て主要なる道路が新に開鑿された場合に於いては、道祖神場も偶々共に其新道路の傍へ移轉された例が少なくない。前記一覽表中に新道路に沿つた繁落の少ないのは調査不十分の結果筆者の故意に其くものである。道路の發達の急激なる今日では特に此點に注意して調査をすゝめて行くべきであらう。然も其移轉當時に於て其地方の人物道祖神に對する思想が往時と變つて來て居れば格別にも複雑化されて來る。又是に反して舊道が殆ど廢絶に瀕したる場合、はらず道祖神場が依然としてその地點に置かれてある場合もあつた。前記一覽表中の此様な點も考慮して決定したるものも、「二ある」。

此外洪水、山崩等の地變の結果其地點の變更されたものも限らない。

是等を委しく考慮して初めて役立つ處のもので單純には行かない。

以上筆者は地方により道祖神なるものがその祭祀の當初繁落の入口即ち末端部に設けられたる地點に於て居る事を指摘し、それに相當の考慮を用ふる事によつて其繁落終に遷行繁落の過去の形跡を考察する一助となり得る場合の少なからざる事を踏述し、旁々今後に於て次第に地理調査に際しては繁落すへに各種地表現象の調査を併せてその地域に即して居るものか如何かの吟味も亦肝要の事と併し道祖神を悉く其一類と試みるのである。

調査日尚淺く研究の範圍極めて狭少である。各地在住諸氏の御高教を仰がしむる所としてに事とす。

(昭和七年一月一日)

49

上級学校の入試問題の例(1)

昭和6年度 陸軍士官学校

〔第1問〕

- (1) 臺灣ノ主要ナル農産物5ツ並ニ其ノ産スル地方ヲ記セ
- (2) 地中海ニ面スルヨーロッパノ軍港ヲ擧ゲ且ツ其ノ所属國ヲ記セ

明治32年度 東京外国語学校

- (1) 東京市ト同緯度ニ位スル亜細亞及歐羅巴ノ國々ヲ擧ゲヨ
- (2) 長崎港ヨリ獨國Humburgニ至ル航路ノ大洋、海灣、要港及溝渠ヲ順次ニ枚挙スベシ
- (3) 東京市ノ7月5日正午12時ハ英國Greenwichノ何月何日何時ナリヤ
- (4) 次の都邑の所在を問ふ
 - A Brindisi
 - B Kiel
 - C Rern
 - D Culais
 - E Buenos Aires

50

上級学校の入試問題の例(2)

明治32年度 東京高等師範学校

- (1) 標準時ノ必要ナル所以ヲ述ベヨ
- (2) 丹後ノ天ノ橋立ハ如何ナル地文学的作用ニテ成立セシ者ナルカ
- (3) 印度ノ兵備ニ就キテ知レル所ヲ記セ
- (4) あめりか合衆國ノ工芸ニ就キテ知レル所ヲ記セ
- (5) 世界ニ於ケル産米地を列挙セヨ
- (6) 左記ノ都邑ニ就キ知レル所ヲ述ベヨ
門司 恆春 平壤 厦門 海防 庫倫 クラスノイアルスク ターメア
カルツーム アカブルコ

明治32年 第二高等学校

- (1) 下ノ所在ヲ白図ニ記入セヨ
襟裳崎 牛荘 あるたい山脈 かーばしあん山脈 ぼんべい しかご
ぼるねお とらんすうゝーる がんぢす せんとびーたーすふるく
ふろりだ だーだねるす海峡 あどりあちつく海
- (2) 欧羅巴及亞米利加ニ於テ大統領ヲ有スル国々ノ名ヲ列挙セヨ
- (3) 本邦ノ最モ重要ナル輸出品5種ヲ挙ゲ且之ヲ購入スル重ナル国名ヲ記セ
- (4) 本邦近海ニ於ケル重ナル海流ヲ挙ゲ且ツ其本邦ノ温度ニ及ス影響ヲ畧述セヨ
- (5) 地球ノ完全ナル球体ニ非ルコトヲ證明スル事實ヲ畧述セヨ

51

上級学校の入試問題の例(3)

明治32年 第五高等学校

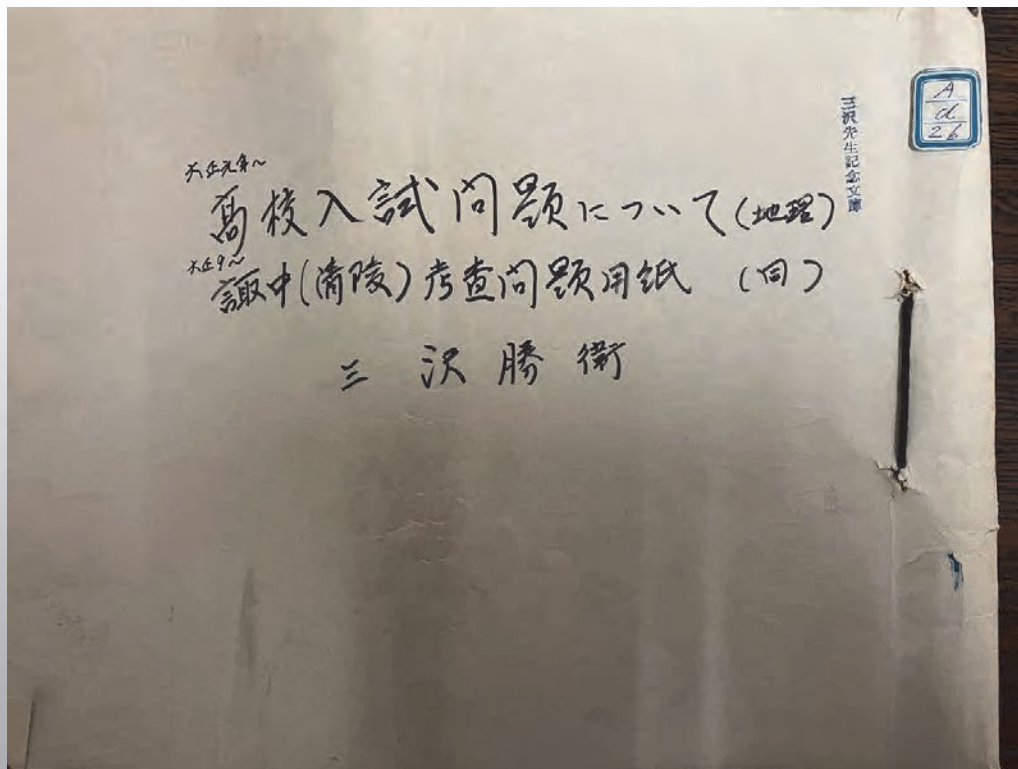
- (1) 吾国ノ近海ニアル海流ノ流域ヲ示セ
- (2) 晝夜谷風ト山風ノ交互に生ズル原因ヲ説ケ
- (3) 神戸港ヨリ青森ニ至ル太平沿岸ノ港湾ノ名ヲ挙ゲヨ
- (4) メキシコ國ノ政治及物産ヲ説ケ

明治32年 海軍兵学校

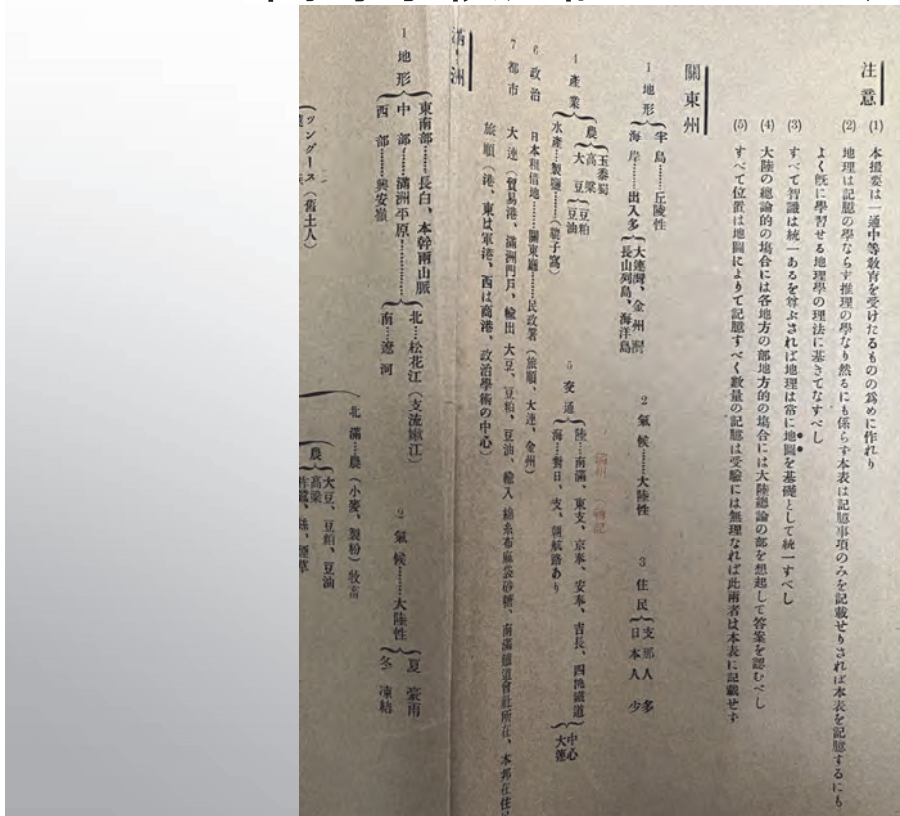
- (1) 九州ノ略図ヲ書キ国名ヲ記入セヨ
- (2) 北海道ノ高山大河各三ツ挙ゲ、山ニアリテハ其所在ノ国名ヲ、河ニアリテハ其分水嶺及通過スル国名ヲ記セ
- (3) 欧羅巴ノ国名十ト其國ノ首府ノ名ヲ記セ
- (4) 北亞米利加ノ五大湖ト二大湾ノ名ヲ問フ
- (5) 支那ノ海ニ接スル省ヲ列記セヨ

52

高等学校入試について(1)



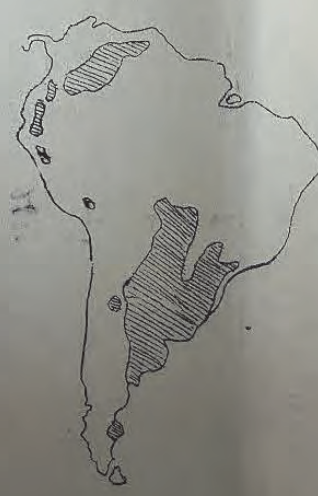
高等学校入試について(2)



中学校試験問題について(2)

第二学年地理科
 一、分布図ヲ作ルルヒキノ分類ニツイテ如何ナル注意意ガ大切ナルカ、且ツツシテ
 例ヲ挙ケテ説明セヨ、
 部 番姓名

ニ次ノ分布図ヲ説明セヨ、




三、次ニ列挙シテアル國々ノ首府ヲ名稱ヲソノ下ニ附記セヨ、
 アルゼンチン、 エクアドル
 ブラジル、 ペルー
 4、 ホリビヤ

61

中学校試験問題について(3)

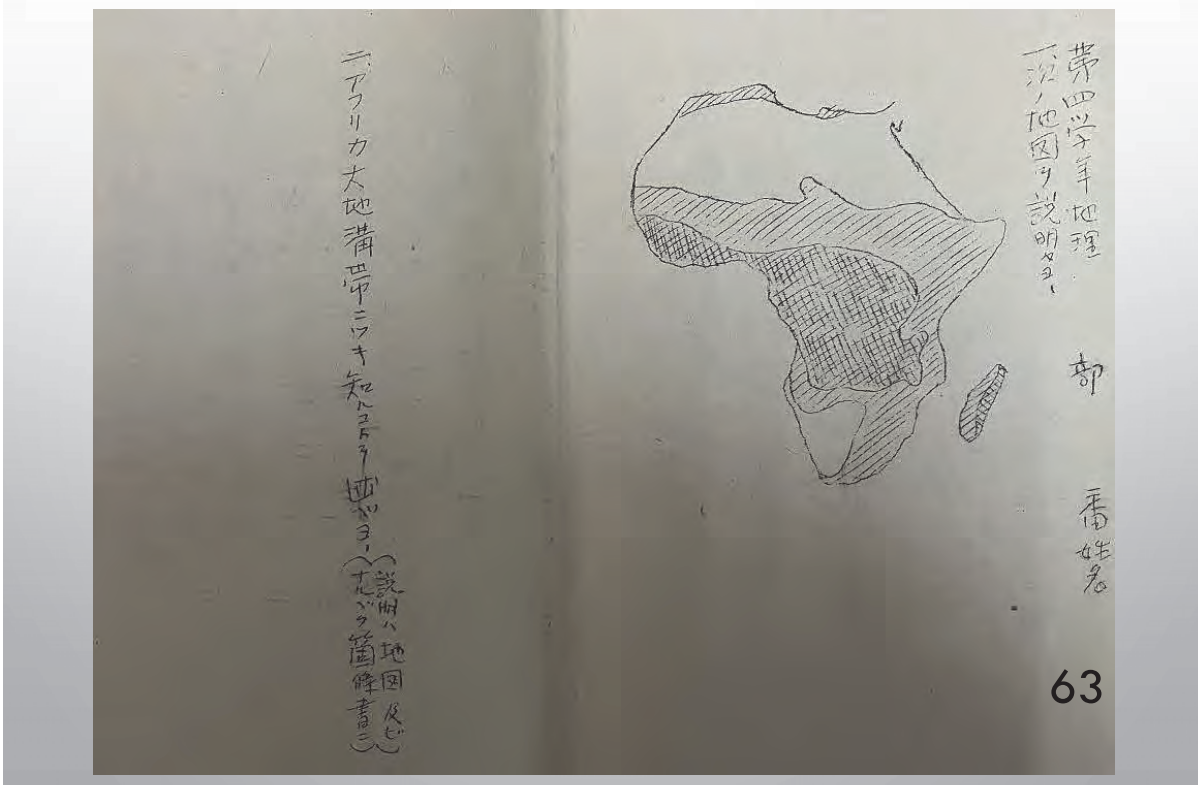
第四学年地理科
 一、例ニ南米ニ于テ熱帯地域ニ於テ何ノ産物ノ特殊形態ヲ説明セヨ、
 部 番姓名



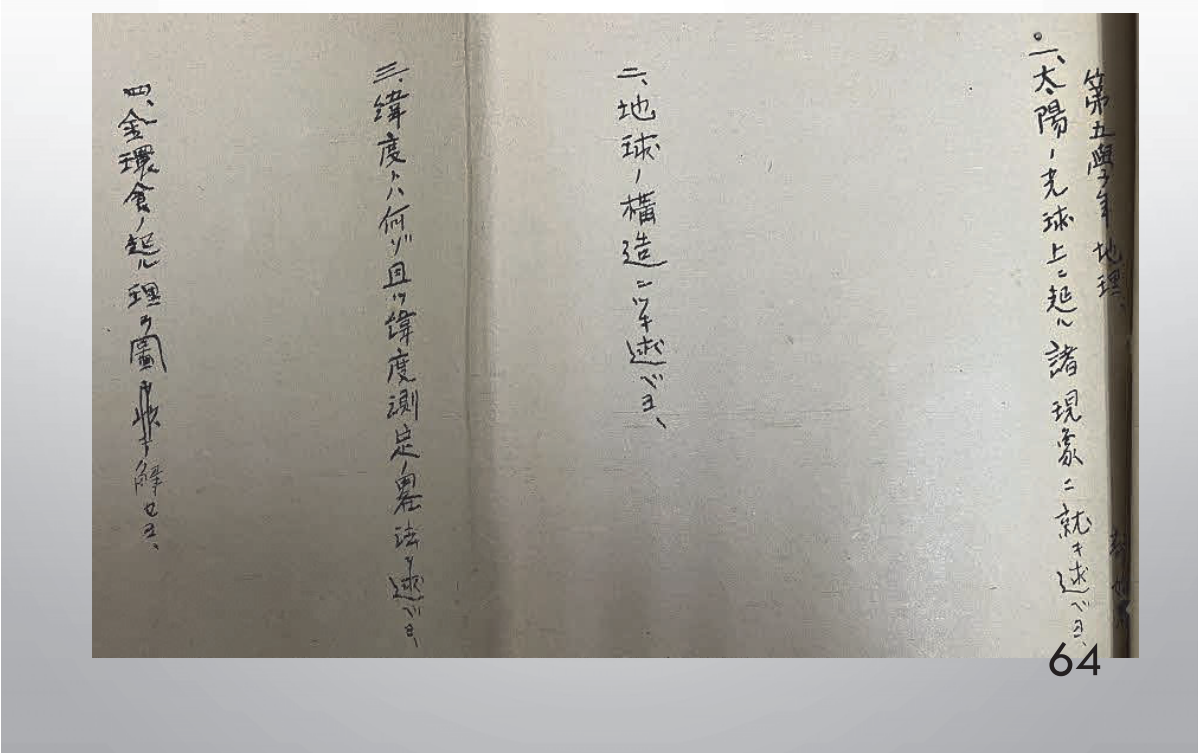
ニ次ノ地図ヲ用テ南米ニ於テ何ノ有望ナル地域ヲ劃シ且ツ其理由ヲ説明セヨ、

62

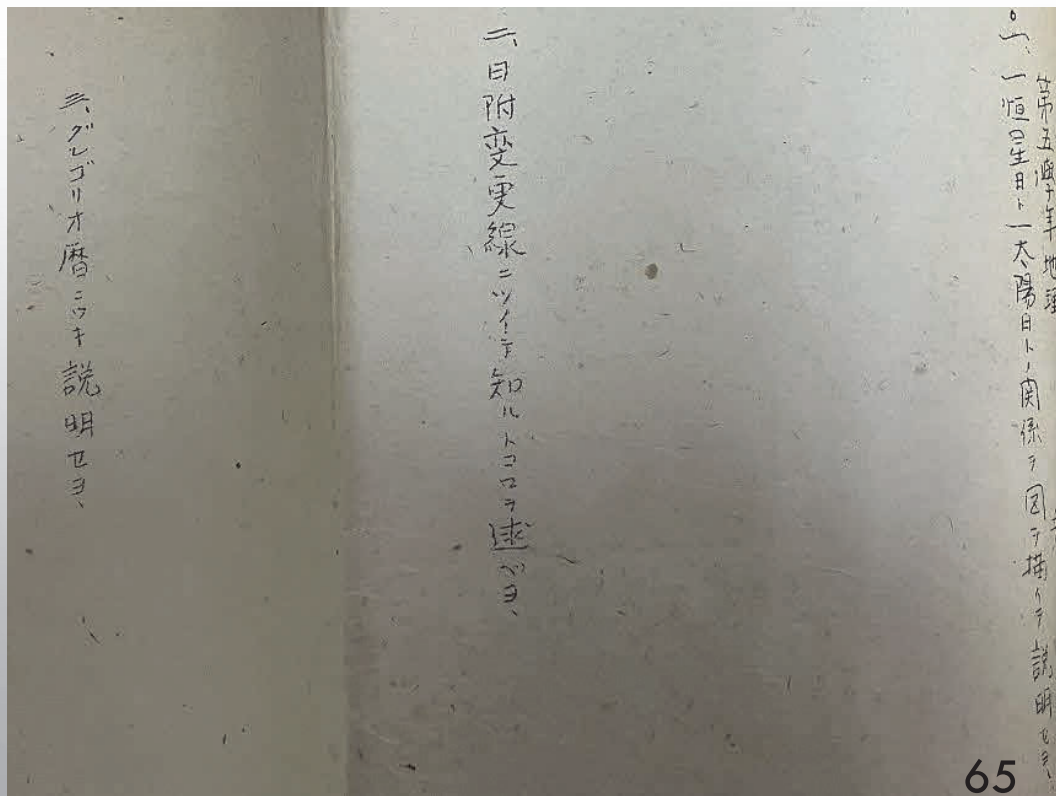
中学校試験問題について(4)



中学校試験問題について(5)



中学校試験問題について(6)



参考文献一覧

1	文庫開設記念文集『三澤勝衛先生』	三澤先生記念文庫発起人会	1965(昭40)7月
2	『信濃教育』第959号(特集三澤勝衛先生)	信濃教育会	1966(昭41)10月
3	『三澤勝衛地理研究資料目録』-所蔵諸資料の一覧・解説-		1973(昭48)4月
4	藤森栄一『信州教育の墓標 -三澤勝衛の教育と生涯』	学生社	1973(昭48)9月
5	矢沢大二編『三澤勝衛著作集』(全3巻)	みすず書房	1980(昭55)
6	三澤勝衛『風土産業』	古今書院	1986(昭61)
7	宮坂勝彦編『三澤勝衛 -風土・魂の教育者』	銀河書房	1986(昭61)
8	宮坂広作『風土の教育力 -三澤勝衛の遺産に学ぶ』	大明堂	1990(平2)
9	岡田俊裕「三澤勝衛の地理学研究 -その変遷と日本の地理学-」	地理科学vol.44	1989(平1)
10	角田雅昭「三澤勝衛の教育と『驚き』」	相模女子大学紀要VOL.85	2021(令3)
11	井上弘司「三澤勝衛の風土学をベースに教育・産業からの地域づくりに関する一考察」	同志社政策研究(4)	2010(平22)
12	角田正和「内容知と方法知の統一的習得をめざす『身近な地域の調査』の授業開発-三澤勝衛の『郷土地理教育』を援用して」	社会系教科教育学研究第19号	2007(平19)
13	神田嘉延「地域風土からの教育創造 -三澤勝衛の教育論から」	南九州大学人間発達研究第3巻	2013(平25)
14	加藤憲一「三澤勝衛の地理教育実践とその特質」	学校教育研究22巻	2007(平19)
15	三橋浩志「三澤勝衛の地理教育における『風土』と『災害』の関係」	中等社会科教育研究30	2012(平24)
16	山本一清「三澤勝衛氏より(涙の手紙)」	東亜天文学会 天界166	1939(昭14)
17	竹部嘉一「生涯学習に位置づけられた地理教育」	立命館地理学第6号	1994(平6)
18	竹村一男「地理教育者の肖像」	文教大学女子短期大学部研究紀要52集	2009(平21)
19	近藤裕幸「わが国旧制中学校の地理教育成立過程における地理学研究者の役割」		2005(平17)
20	佐々木享「旧制高校の入試の歴史(1)」		
21	渡辺光「戦前および戦時中の地理教育」	お茶の水地理学10	1968(昭43)
22	松本康・篠崎正典「長野県内における小中学校用社会科副読本 -作成状況と内容構成の分析を通して-」	信州大学教育学部研究論集第14号	2020(令2)
23	三澤勝衛「道祖神の地理的研究」	地理学第7巻第6号	1939(昭14)